

## エピソード

園庭のフェンス沿いに並んだ円柱のコンクリートの上を歩く A 児。コンクリートはグラグラするので、フェンスを持ち、そっと足を置いて安全かどうか確かめながら進んでいきます。何度もコンクリートから足を滑らせながらも、その上を歩くことを繰り返し楽しんでいました。その後、近くにいた友達に「おいで！」と誘って、それぞれがフェンス沿いを歩きます。ゆっくり進む子どもや早く進む子どもがいましたが、お互いにスピードを合わせ、声をかけ合いながら繰り返し楽しんでいました。

子どもの育ちや学び

保育者の思い



足は滑りやすいけどそのスリルが楽しい。スムーズに歩けないことが楽しい。そのことが、あきらめずに何度も挑戦したり、考えたり、試したりする気持ちにつながっています。

足を滑らせたことは失敗ではなく楽しさに変えたい。保育者の見守りのもと、難しいことにも挑戦してみようとする気持ちを大切にしたい。



友達を誘って一緒に遊びたい、友達に楽しさを伝えたいという気持ちは友達への興味や関心につながっています。

A 児の遊びを友達に知らせ、一緒に遊んでほしい。



楽しいと感じたことを言葉にしなが、何度も繰り返し遊ぶ。友達に思ったことや感じたことを言葉で伝えようとする気持ちが育っています。

- ・友達と言葉のやり取りをしながら、遊ぶ姿を見守りたい。
- ・やった→できた→おもしろかった→もっとしたいという経験をしてほしい。

## 家庭だったら…

子どもたちは大人が想像や予想もしてないところに興味を持ち、集中して遊んでいるってことが多いですよ。それが難しいことなら「あぶないかな」大人は感じて“やめて”と言ってしまふかもしれません。でも、一緒に遊んで“すぐに助けてあげるよ”“もっとチャレンジしてもいいよ”という安心、安全な状況を作り、子どもたちには少し難しいなと思うことでもチャレンジさせてあげたいものですね。成功体験は自信につながっていくと思います。